

摘 録

会 議 名 令和5年度第5回刈谷市文化財保護審議会
日 時 令和6年3月6日(水) 午前10時00分～午前11時00分
場 所 刈谷市歴史博物館講座室
出 席 者 委員：山田孝、鈴木達夫、松原啓治、渡部貫道、真島聖子、川崎みどり(敬称略)
事務局：鷹羽和久(文化振興監兼文化観光課長)、田代英徳(歴史博物館長)、新田温子(館長代理) 鶴飼堅証(歴史博物館専門員)、永井優香子(歴史博物館学芸員)

内 容

1 あいさつ

2 報告事項

(1) 市指定文化財について【非公開】

(2) 令和5年度文化財保護審議会開催状況について

(事務局) 年度当初の計画通り、審議会5回、県内研修1回を実施した。

(3) 令和5年度文化財保護関係事業実施状況について

(事務局) 事業の実施状況について報告する。

(A 委員) 肴町の山車は、いつ破損が見つかったのか。5月に山車を出した前か後か。また、修繕のタイミングは？

(事務局) 跳ね上げ格子の部分割れは山車を出す時点で気がついた。おそらく以前の曳き回しか博物館への移動の際に破損したと思われる。5月の曳き回し後、蝶番の破損も生じていたので、今年度11月に修繕した。

(B 委員) 一度収蔵場所から出してみないと山車の破損は気がつかないことが多い。知立市では1回ごとに組み上げ・解体するので、その際に分かることがある。そのためには、解体・組み上げをできる人がいないといけない。刈谷市の場合(新町・肴町・小垣江)は組み上げたままであるので、祭りの当日破損が分かることが多くなると思われる。

(C 委員) 山車に限らず、地震への対策はどうか。

(事務局) 建物自体は耐震構造。山車は車輪を上げた状態にしているので、特別大きな揺れでなければ、動いて展示室のガラスを傷めることはない。収蔵庫内の棚には落下防止ベルト・バー・ネットを施しているが、常設展示のケース内では資料ごとに対応している。土器などはテグスをかけたりしているが、そうでないものは地震で動くことはありうる。企画展では、できるものは免震ケース・免震台で対応している。

(D 委員) カキツバタの調査報告書は今年度刊行されるのか。

(事務局) 今年度刊行予定である。

(E 委員) 博物館の中学1年生見学、郷土資料館の小学3年生見学の成果をどう示しているか。

(事務局) 郷土資料館では小学3年生の見学の後、あらためて親や友達と一緒に来館することがある。博物館でも工作など多く行っているため、その効果はある。中学生見学の成果の指標としては、2年に1回行われる市民意識調査で「刈谷の歴史に興味がある」生徒の割合が、開館以降上昇していることで示される。学芸員の話や資料を直接聞いたり、資料にふれたりすることで、興味・関心を高めることに一定の効果は上げている。

(F 委員) 教員の研修なども行っているか。

(事務局) 企画展ごとに教員(主に社会科)向けに展示説明や教材としての活用のための説明を

行っている。学校へのアウトリーチ活動も行っている。

(A 委員) 私が小学校から依頼されて地元の歴史について授業をしているが、今後、博物館の学芸員に頼むことはできるのか。

(事務局) 出前講座を利用されれば、対応は可能と思われる。

(B 委員) 子どもがイベント後に振り返りができるよう、冊子も準備しているが、そこまでやってもらえるか。

(事務局) 学芸員だけでなく指導主事も含めて検討することになる。

(C 委員) 埋蔵文化財の事業で、市内の試掘・確認調査はコロナの影響を受けているか。安城市では調査員3名が実施していたが、このところコロナの影響で少し調査件数も減少している。

(事務局) 刈谷市は例年安城市ほどの調査は行っていないが、コロナ禍の時よりも（5類になった）現在の方が、住宅建設や宅地開発等に伴う埋蔵文化財の照会件数はやや増加しているように感じる。今年度対応した宅地開発も、以前よりやや活発になった感じを受ける。

4 事務連絡

(1) 次回日程について

(事務局) 来年度の第1回文化財保護審議会は5月頃の開催を計画している。

《委員了承》

以上